

よみがえれ、労働運動

第 6 回 関東ブロック

三池の「長期抵抗・統一路線」は幸せへの道しるべ

司会 前回の5月号で三池の幹部闘争から、大衆闘争について討論しました。特に大衆闘争の柱と言われている学習運動・家族ぐるみ・同志愛について語っていただきました。6月号ではそのつづきと、それをもとに1960年日米安保条約改定闘争と結合し、ほぼ一年間、313日の長期ストライキをたたかい、1962年の「長期抵抗・統一路線」の決定、1963年三川鉱炭塵大爆発の大災害からCO(一酸化炭素中毒で脳が破壊された)闘争へと進んで行ったといわれている、その「長期抵抗・統一路線」の確立に学

んでいきたいと思えます。

「眠れる豚」と罵倒されて

Kk 5月号でみてきたように「眠れる豚」から獅子へ転換できたのは、学習闘争、職場闘争、家族ぐるみの闘いがあつたからですね。特に主婦会結成で団結が強まったというのは分かったけれども、塚元さんが言っている皆さんの家庭は下宿人夫婦ではないですかと言っていますかみなさんどうなの？

Tz 俺、母ちゃんによく話をするんですが、正直おれ職場結婚だったら、

母ちゃんと結婚しなかったと思うんです。価値観が違いすぎるから。母ちゃんとはたまたま、文通で知り合って、それがきっかけで一緒になりました。正直妻自身が、政治なりこういう労働運動に関心を持たない限りだめですよ、後になって、三池みたいに闘いの中で、あればそういう可能性があるのではないか、俺も自分なりに、東部も家族ぐるみをやったりしてね、地区レクなり俺も、何回も一緒に行ったけど妻は「行ってやっっている」という、感覚だから正直難しい。地区レクに行った帰りに言われたけど「だからお父さ

◆みんなの学習講座



三池労組員、社青同の仲間とスクラムを組む向坂逸郎氏

んのために行ってやったのよ」とね。こういう状態ですから下宿人夫婦の典型ですね。

Ah それでも出てくれば、いろいろ感じるところもあるのでは？

Tz 妻は農作業も全然やらないですよ、俺は、定年になって一緒にやるのが夢だった。でも母ちゃんはやらないんだ。お互い人間だからそれぞれに欲望があるから、本人が、関心がない限り、強制できないでしょ。一緒の方向に生きるのには難しいです。

でも今が不幸せとは思わないですよ。俺は野菜作りができて毎日が楽しい。母ちゃんは自分の好きなことをやっている。それでも家庭破壊になっていない。いいんじゃないですか。

司会 はい、家族ぐるみはここらでいいですか。それでは、次に三池も最初は「眠れる豚」と罵倒されたといいますが、これには向坂逸郎先生が注釈をつけていますね。

Ks 三池労働組合は、いたずらに体のみが大きい又何もしないで眠っている、というわけで、「眠れる豚」と罵

倒した人間がいた。それに対して向坂先生は、こう反論したんだ。「三池には豚はいない、いまは眠っているけれども、豚ではなく獅子だ。豚が目を見ましてもなにもできないが、獅子が目を見ますと大変なことになるぞ」と答えたんだ。そして、「獅子が目を見ますことの手伝いをしよう」と言い、かつそれを実行したんだ。三池炭鉱労働者と様々な学習を取り組み、闘いのエネルギーに転化し、三井独占資本に対して幾多の大闘争を闘ったんだ。

Sk 豚は目がさめても、あくまで豚だというのは説得力があるね。獅子が起きたら強大な力を発揮する。三池は眠れる獅子、それで三池と安保の大闘争もたたかいぬけたんだ。

Ks これも主婦会結成で家族ぐるみの力があつたからなんだ。やっぱり家族ぐるみをあきらめないで追求していかないとだめだと思う。

「二歩後退・二歩前進」から

「長期抵抗・統一路線」の確立

司会 Ⅱ それでは、次に313日の長期闘争を闘った総括から生まれた「長期抵抗・統一路線」について、みなさん読まれてきたと思いますので感想を出しあってください。

Kk Ⅱ 三池の学習運動は8人で始めた。学習が闘いの基礎にあったと思います。今職場では、60歳過ぎたら再雇用が認められないというふうになっていて、一年ぐらい前に同期の男の人達で集まった時には、まだ、出来れば残りたいという話をしていたわけですね。だけど、それが3カ月おきぐらいに会うごとに、だんだん、俺は他の仕事を探すとか、最後には、やっぱり諦めるよと、という声がすぐく出てくるわけですね。

このようにどんどん後ろ向きになっちゃっているのを打破するには「長期

抵抗・統一路線」の中にも言われていたけど、やっぱり、正しい思想というか、生き方というか、そういうのを自分のものにする、ということがない限り、前向きに闘おうとか、職場で、ものを言っていこうという気持は、なかなか湧かないんだなっていうのを、これを読んでそのように思いました。

司会 Ⅱ 「二歩後退、二歩前進」をキチンとやり遂げるためには「正しい思想を持つてやらねばいけない」と言っているんですよ。しかし、今、後退に次ぐ後退だといわれる、そこをどうとらえるのかですね。

S Ⅱ これを読んで、一番最初の「二歩後退、二歩前進」のところね。学習とその実践とのかかわりというのがあると思います。自分自身が学習と相互討論の中で、鍛えられた思想性を実践するという理論と実践の結合だと思っんです。職場で主務試験（昔の助役試験）が問題になっているんです。そこ

で分会総会で「主務試験受けて受かったら、どこでも配転されてしまう。だから受けたくない。それをわかってくれない。おかしいじゃないか！」といつても、みんなが「そうだ！」の声が出ないんだ。こういうのを学習会で「俺たちのやっているのは正しいよな」という討論と、テキスト学習と組合での実践的な取り組みとの結合が必要だと思えます。一人ひとりを闘いに立ち上がらせ抵抗を組織していくということだと思えます。

司会 Ⅱ 闘いには二つの目標を持つて書いてありますね。主体性の確立が大事だと言われていますね。

Sz Ⅱ 主体性については、春日部検修区でやった「基準検査の闘い」というのを思い出しますね。この闘いが出来たのは「まなぶ友の会」のメンバーが毎日職場で昼休み学習会を開いていた。7班あって月曜から日曜まで毎日毎日電車の中でやっていたんだよね。学習

◆みんなの学習講座



1960年7月17日、総評九州拠点10万人大集会

したことを実践に転化した事で、この闘いが組み込まれたよね。「長期抵抗・統一路線」の中にも書いてあったように、実践によって鍛えられるというのは実感としてよくわかります。

労働運動の強化と

社会主義政党の強化は両輪の歯車

司会Ⅱ闘いの中で学習会が理論と実践が結合されて出来たということですね。それで「長期抵抗・統一路線」で、

職場闘争を強化して資本主義制度そのものに対して闘うということ、その為には社会主義政党を強化しなくてはいけない、と言っています。社会主義政党が後退している中でどう思いますか。日本に社会主義政党があるのかという意見もあるとおもいますが。

KkⅡ 今ね、新型コロナウイルスの問題が熱くなっていますけど、私なんかも困っているんです。マスク買えないんですよ。資本主義だから金が有ればすぐ手に入る。社会主義であれば計画経済で、計画的にマスクを皆さんに行き渡るようにしましょうとかなる。コロナで分かったのは、この資本主義の中では人類は生き残れないんじゃないや無い

かな？ 労働運動の強化と社会主義政党の強化はセットで取り組むってことでしょう。

MⅡ 社会主義政党は自分たちで作るしかない。自分たちで依拠するところで作るしかない。

キューバなんかはコロナ感染で困っている国に医者や看護師、薬を派遣しているじゃないですか。アメリカの経済封鎖にも負けていないよ。社会主義は生きていますよ。

司会Ⅱ 依拠するところとはどこですか。
MⅡ 俺は社民党だけだね。新社会は新社会でつくっていくしかない。でも、今は議員が少ないから政党助成金が少なくてよその政党とくつつこうという動きがあるけれどもそれじゃだめだ。自分たちの足元で強化するしかない。
司会Ⅱ どういう風に強化するんですか。
MⅡ それは自分たちの仲間づくりだろう。

司会Ⅱ 今の日本の社会主義政党と言わ

れる政党を強化するということですか。
MYI 自分の依拠する政党だよ。そりやあ、綱領が社会主義を目指しているのかという議論もあるから、まず、自分たちが一致できることから共闘していく以外ない。平和、人権、沖縄で。

OKII 社会主義の利点は労働大学訪ソ学習交流団にも行って、現実を見てきて医療費もタダだし、物価も上がらないとか分かった。でも大方の人は、「社会主義についてどう思うか」と聞いたら、自由が無いんじゃないかと、土地もとられちゃうんじゃないかと、そう反論されると言えなくなる。「社会主義になったら、こうなります」と学習し宣伝するしかない。

MYII ブロックチューターの学習会で「科学的社会主義」のところに、そのことが出てたじゃないか？ 理想を求めらんじゃない。以前の学習会で富山栄子さんが、今、現実、首切りや権利破壊を闘っているのが、社会主義に

向かっているという事だった。今、闘うことが社会主義への展望を開くんだ。

SeII でも今の日本の労働運動の現状を見てみると、社会主義政党、左派政党は、この労働運動の実態で、労働者大衆の気持や声を反映する政党になっていのかどうか？ できるのかどうか疑問に思うね。労働運動が闘って健全であれば、そこに寄って立つ政党も健全な闘う政党になるだろうけど、ところが、今は職場でものも言えない、言わない。そういう状況になっている。これを、どう労働組合を強化して、我々の気持ちを吸い上げて、政党として、総評主導の時のように、当時の売上税、インフレ共闘、国民春闘の時のような闘いを作っているのか、なかなか難しいというのを感じますね。でも権利慣行が奪われているんだから、おかしいこととおかしいと主務試験の問題で言ったように、労働者の気持をつかんだら、一言でも声を出して、

「そうだ！」となるまで何回となく言うていくしかないんじゃないか。

CO患者・家族と全国の

労働者の実態は紙一重だ！

司会II 三池の313日の大闘争の後に「長期抵抗・統一路線」が決定され、その翌年の1963年に三川鉱の炭塵大爆発があったわけですよ。そして、重軽傷者合わせて4230名の犠牲者が出た。亡くなった方は474名でCO患者839名の犠牲者を出した。三池労組は「資本主義的合理化は、労働者の生命、健康・生活を破壊する人殺し合理化である」と、全国に訴えたわけですよ。その中身が「CO患者・家族と全国の労働者の実態は紙一重」ではないかと。それが今日までCO闘争として闘い続けられているのですね。そして、今も毎年「三池友の会」にまなぶ全国交流会」が開かれ交流がある、

◆みんなの学習講座



1963年11月9日、三井の合理化、保安サボが労働者の命を奪い、CO中毒で家族までも苦しめた。その責任を追及する家族と三池労組員

これに参加してどのように思いますか。
So!!今もね。80歳、90歳になっても学習して責任を追及している。つまり、三井を許さない、人殺し三井を許さない、家族を返せという責任追及、死ぬまで闘い続けるというそういうと

ころをね。自分自身はどうだったのか、常に突き付けられている課題ではないかと思うんですよ。三池CO闘争と聞くと、気が引き締まりますよ。自分の働き方、生活、健康問題を見直すことが大切なんじゃないかと。闘えば得をする、闘えば損をしない、とよく言っていたんですけど、そのことが、自分と家族の生命を守る闘いになっているんじゃないかと思う。三池CO闘争というのは、自分の生命・健康・家族を含めて、仲間・組織を守る重要な闘いだと思いますよね。これを資本主義を倒して社会主義まで長期抵抗の構えで闘い続けることが、労働者の幸せを導くことにつながるんだ。

司会 三池CO闘争は「長期抵抗・統一路線」という、資本主義が続く限り闘い続けなければいけないぞ、ということ、「子々孫々にいたるまで」、三井資本に対する責任追及をやってきたんですね。故灰原さんが、社会主義政

党の後退の中で何をするのかということで、3つ出している。一つは、労働者は最後に必ず勝利する、という科学的社会主義の思想に自信と確信を持っているか。そして、二つ目には、一人ひとりの労働者が如何にして闘いに創意性を持って、主体的に闘いに参加出来るのか。三つ目には、労働運動の階級的強化無くして社会主義運動の強化は勝ち取れないし、社会主義運動の前進が無くして労働運動の階級的強化は凶れないという相互関連、弁証法的発展の理解ですよ。それが「長期抵抗・統一路線」の基本的な思想だ、労働者の幸せにつながる思想なんだと結んでいただきました。

ありがとうございます。今回の学習で三池闘争がどのように生まれ、どのように発展してきたのかが分かったと思います。次回の7月号は、この三池闘争から学んだ国鉄闘争について学習していきます。